

はじめに

平素より地域の感染症対策に御協力いただきありがとうございます。
 医療機関向け情報には **医** を、一般施設向け情報には **全** をつけています。
 原則毎月第2・4木曜日に配信し、新たな通知や感染症情報等がある場合、随時臨時号を配信いたします。
 全数報告：第43週～45週(10/20～11/9) 定点報告：第41～45週(10/6～11/9)

全数報告疾患情報

医

市川保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています

※定点報告疾患については、第41週～第45週のグラフを別添しております

2類感染症	43～45週	累計（年）
結核	4	106
3類感染症	43～45週	累計（年）
腸管出血性大腸菌感染症	1	10

4類感染症	43～45週	累計（年）
デング熱	1	1
日本紅斑熱	1	1
5類感染症	43～45週	累計（年）
梅毒	1	26
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	8

発生動向トピックス

TOPICS 1

11月は薬剤耐性(AMR)対策推進月間です！

医 **全**

「AMR対策推進月間」は、薬剤耐性菌(AMR: Antimicrobial Resistance)の拡大を防ぐための啓発活動を集中的に行う期間です。世界的な問題となっている薬剤耐性菌の増加に対して、一人ひとりが正しい知識を持ち、具体的な行動を起こすことを目指しています。この推進月間は、世界保健機関(WHO)が提唱する「世界AMR啓発週間」に合わせて開催され、世界AMR啓発週間は毎年11月18日から24日まで実施されます。

薬剤耐性菌(AMR)とは？

薬剤耐性菌(AMR)とは、抗菌薬(抗生物質)が効かなくなってしまった細菌のことです。通常、抗菌薬は細菌感染症を治療するために使用されますが、過剰な使用や不適切な使い方を続けると、細菌が薬剤に対して耐性を持つようになり、治療が困難になります。



—なぜAMRが問題なのか

治療困難な感染症の増加

薬剤に耐性を持つ細菌による感染症は、治療が難しくなり、重症化や死亡につながるリスクが高まります。

医療費の増加

耐性菌による感染症は治療が長期化するため、医療費が高額になる傾向があります。

新しい抗菌薬の開発が停滞

新しい抗菌薬の開発ペースは遅れしており、耐性菌に対する治療手段が減少しています。

世界的な公衆衛生の問題

WHOはAMRを「世界的な公衆衛生上の脅威」として警告しており、国際的な対策が急務です。

—私たちができること

薬剤耐性菌を防ぐためには、私たち一人ひとりが日常生活での行動を見直すことが重要です。

1 抗菌薬はウイルスには効きません

抗菌薬はウイルスには効きません！

抗菌薬は文字通り細菌と戦う薬です。細菌とウイルスは全く別の病原体であるため、抗菌薬はウイルスには効きません。ウイルスによっておこる風邪には、抗菌薬を飲んでも意味がないのです。



風邪は、ウイルスが鼻やのどにくっついて炎症を起こし、くしゃみ、鼻水、せき、たん、のどの痛み、発熱などができると言います。この、「風邪の原因はウイルス」というのが大切なポイントです。風邪の原因は細菌ではないのです。風邪の症状はいずれも、自分の体がウイルスと戦っているサインです。風邪を治すのは自分自身の免疫力であり、薬ではありません。医師が処方したり薬局で売られている風邪薬は、風邪のつらい症状を和らげるためのもので、原因のウイルスをやっつける薬ではないのです。

抗菌薬はウイルスには効きません。

2 抗菌薬を正しく使用する

抗菌薬は細菌による感染症を治療する薬で、細菌の種類や症状に応じて適切な抗菌薬が処方されます。抗菌薬の飲み方は1日1回や4回などさまざままで、指示された回数を守らないと十分な効果が得られません。また、抗菌薬は年齢、体格、腎臓や肝臓の機能に合わせて適量が調整されています。そのため、処方された飲み方を守ることは、病気を確実に治し、副作用を減らすために非常に重要です。不適切、不十分な飲み方をすると、抗菌薬が効かない細菌が生まれてしまうことがあります。これが薬剤耐性菌です。抗菌薬は指示された通りに服用する、自分自身でできるとても大切なことです。

3 感染症を予防しましょう

感染症にかかるないことが、抗菌薬の使用を減らすための第一歩です。私たちの手は、様々な感染症を運んでいます。手を洗うことで、手についた病原体が自身の体に侵入するのを防ぐだけでなく、周りの人に感染を広げることを防ぐこともできます。手洗いは日常生活の中ができるきわめて有効な感染症対策です。

感染症には予防接種で予防できるものがたくさんあります。予防接種を適切に受けることで、感染症の発生を防ぎ、抗菌薬使用を減らすことが期待できます。

薬剤耐性菌（AMR）は、私たちの健康を脅かす深刻な問題です。抗菌薬を正しく使い、感染症予防を徹底することで、薬剤耐性菌の拡大を防ぐことができます。

「薬剤耐性菌を増やさない」という意識を持ち、医療機関や社会全体で協力しながら、ひとりひとりが正しく抗菌薬を使用し、未来の医療を守るための行動を始めましょう。

【参考】AMR臨床リファレンスセンター「薬剤耐性 風邪に抗菌薬は効きません!!」

<https://amr.jihs.go.jp/information/campaign2025.html>

【参考】厚労省「薬剤耐性（AMR）対策」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

【参考】政府広報オンライン「抗菌薬が効かない「薬剤耐性(AMR)」が拡大！一人ひとりができるることは？」

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201611/2.html#c2>

TOPICS 2

感 染 性 胃 腸 炎 の 集 団 発 生 報 告 が あ り ま し た !

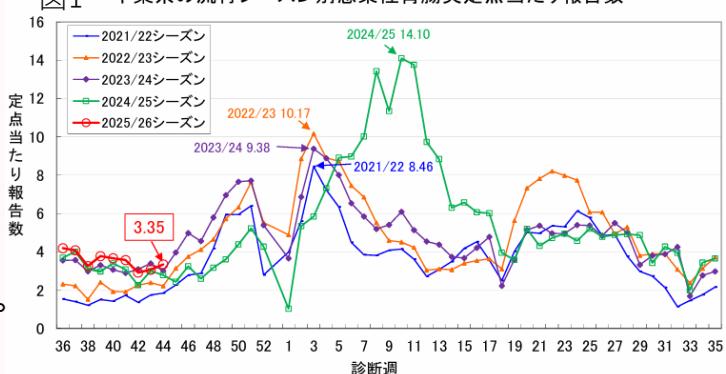
医 全

2025年第44週に市川保健所管内の保育施設より感染性胃腸炎の集団発生報告が2件ありました。また、2025年第44週の千葉県定点当たり報告数は3.35(人)であり増加傾向です(図1)。

感染性胃腸炎は、嘔吐や下痢を主な症状とし、ノロウイルスなどによって引き起こされることが多い感染症です。特にこれから冬に向けて流行が増加する傾向があります。

感染性胃腸炎は、主に接触感染や飛沫感染によって広がります。感染対策の基本が手洗いです。季節を問わずトイレ後や食事の前は石鹼を用いた手洗いをしましょう。また、施設内での感染対策について今一度御確認の程、よろしくお願ひいたします。

図1 千葉県の流行シーズン別感染性胃腸炎定点当たり報告数



こまめな
手洗い



こまめな
消毒



タオルは
共有しない



適切な排せつ
物の処理



発生状況の
把握



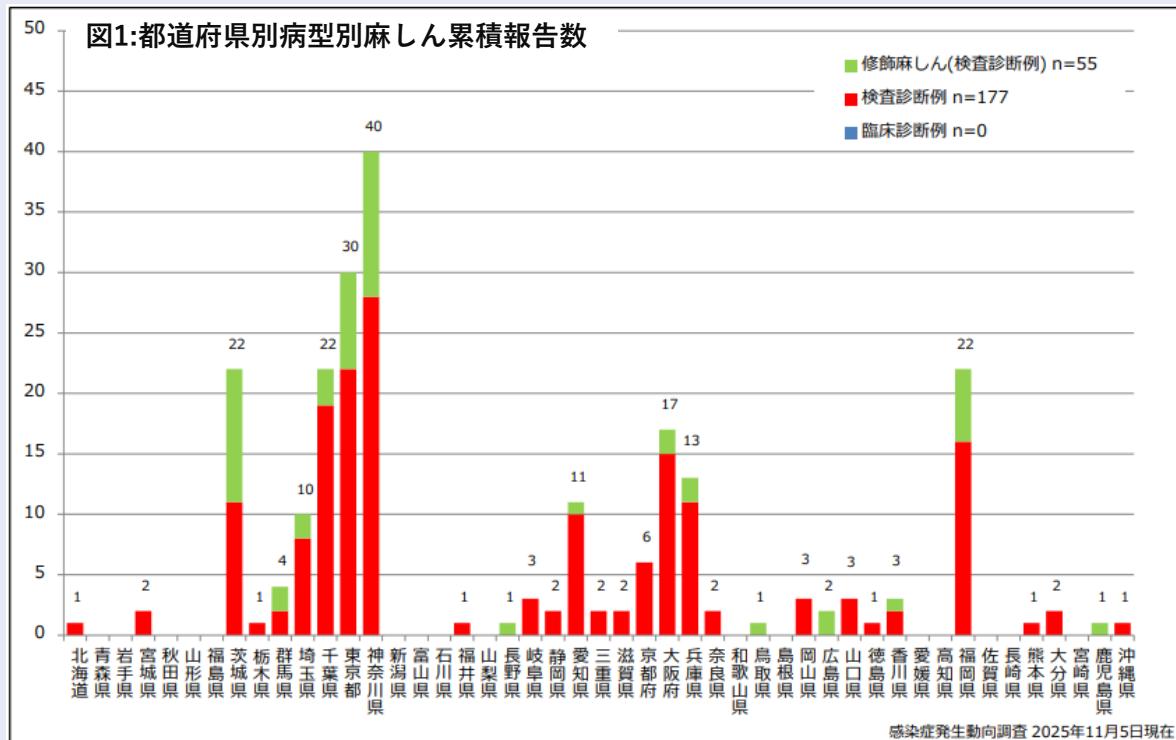
【参考】千葉県感染症情報センター「千葉県の感染性胃腸炎発生状況(2025/26シーズン)」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202544gastro.pdf>

【参考】こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/d557529d/20230401_policies_hoiku_15.pdf

千葉県では、2025年第45週に届出はなく、2025年の累計は22例です。
全国では、2025年第44週に1例の届出があり、2025年の累計は232例となりました。



【参考】千葉県感染症情報センター「千葉県の麻しん発生状況(2025年45週)」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202545measles.pdf>

【参考】JIHS「麻疹発生動向調査 2025年第44週」
<https://id-info.jihs.go.jp/relevant/vaccine/measles/060/meas25-44.pdf>

インフルエンザ 感染症

定点医療機関における感染者数の報告は増加傾向です

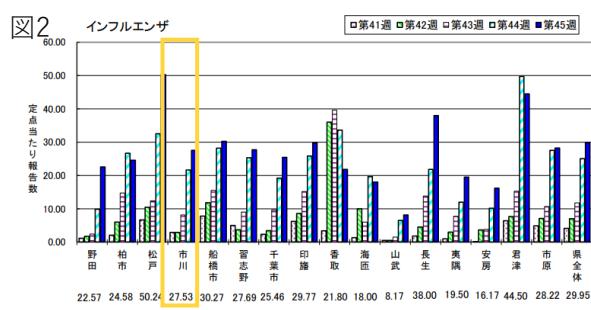
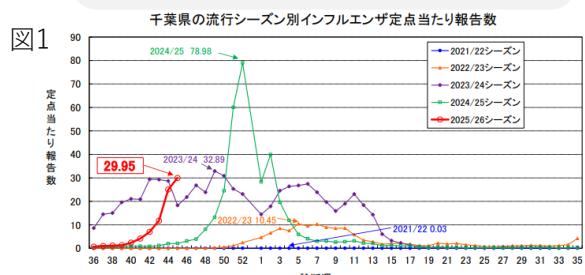
市川保健所管内インフルエンザ発生状況（人）

	A型	B型	A+B型	AorB型※	臨床診断
報告数	755	1	1	0	28

※型非鑑別キット

(医療機関からの型報告なく不明な 275 例を除く)

2025年第43週から第45週における定點各医療機関からのインフルエンザ報告数をまとめた表です



感染 対策

- ①手洗い・手指衛生
- ②マスクの着用・咳エチケット
- ③室内の換気 ④室内の湿度の保持
- ⑤人込みを避ける ⑥ワクチン接種

【参考】千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/202545influenza.pdf>

【参考】厚生労働省：インフルエンザQ&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/influenza/QA2024.html

日本感染症学会、日本呼吸器学会、日本化学療法学会、日本臨床微生物学会、日本環境感染学会の5学会より「5学会による新型コロナウイルス感染症診療の指針」が作成されました。本指針において、新型コロナウイルス感染症の検査と診断、治療のほか、面会の考え方を含めた施設内感染対策等新型コロナウイルス感染症の診療に関わる幅広い内容が含まれています。

引き続き、感染症の流行に注意していただき、手洗いの励行や咳エチケット等の感染症予防策について普及啓発に御協力いただくようお願いいたします。



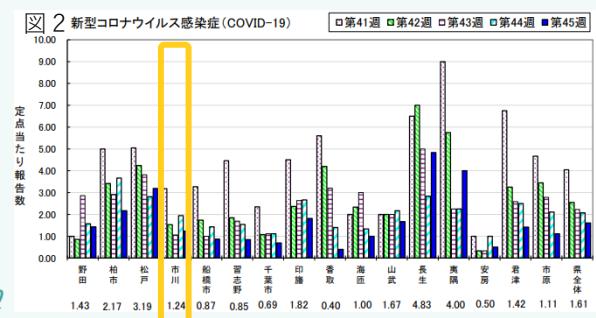
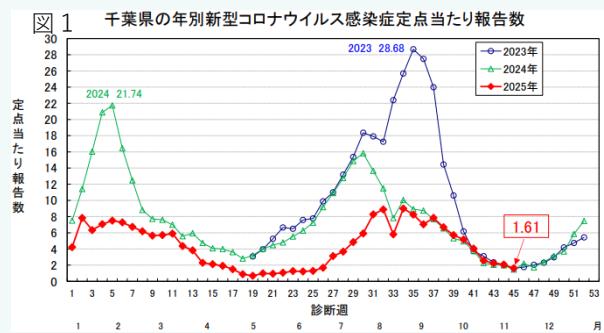
— 定点医療機関による感染者数の報告は減少傾向です

第45週の千葉県全体の定点当たり報告数は、1.61(人)でした(図1)。報告数が多かった地域は、長生（4.83）、夷隅（4.00）、松戸（3.19）保健所管内でした。

市川保健所管内の報告数は、前週から減少し、1.24（人）となっています(図2)。

感染 対策

インフルエンザを予防する方法と同様です



お知らせ

医 全

- 【医療機関の皆様へ】1~4類感染症及び5類感染症の一部(麻しん・風しん・侵襲性髄膜炎菌感染症)の発生届を御提出いただく際は、発生届の御提出と併せて保健所までお電話をお願いいたします。
- ※閉院日にお電話いただいた場合、「千葉県保健所夜間休日受付センター」の連絡先のアナウンスが流れますので、当該センターに御連絡をお願いいたします。



◀◀感染症法に基づく 医師の届出ハンドブック

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/pamphlet_A4.pdf

- ・登録アドレスの廃止、変更等は下記アドレスまで御連絡をお願いします。
- ・いちうら感染症情報は、毎月第2・4木曜日を配信予定としていますが、事情により配信が遅れる場合があることを御了承ください。
- ・いちうら感染症情報の内容は主に公的機関の情報を基に作成し、できる限り最新で正確な情報発信に努めておりますが、各登録機関の責任において御利用ください。
- ・また、メールの安全性についても千葉県の情報セキュリティ対策により安全性の確保を図っておりますが、各登録機関におかれましてもセキュリティ等の注意をお願いいたします。

配
信
元

千葉県市川健康福祉センター
(市川保健所)
いちうら感染症情報
ichiurainf@pref.chiba.lg.jp